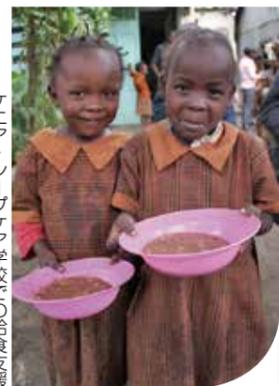


サハラ以南はなお厳しい状況

2014年9月16日、国連は世界の飢餓人口は8億500万人に減少していると発表しました。これは過去10年間で1億人の減少としています。同発表では「2015年までに世界の飢餓人口を半減する」との国連ミレニアム開発目標※は、適切で緊急な取り組みが強化されれば実現可能としています。しかし、**サハラ以南のアフリカでは、いまだに4人に1人以上が慢性的な栄養不足状態**が続き、衛生や教育、女性の地位などの分野でも改善が進まず、飢餓克服を遅らせています。



ケニア・シーブケア学校での給食支援



ウガンダ・カサーレ小学校教室建設の募金にご協力ください

ルワンダ・子どもの教育支援

日本国際飢餓対策機構は2013年夏、コンゴ民主共和国に中央・西アフリカ担当としてジェローム・カセバを、ルワンダに東アフリカ担当として河合朝子を駐在員として派遣し、現地パートナー団体と連携しながら飢餓に苦しむアフリカの人々への支援をすすめています。(次頁にジェローム記事掲載)

南スーダンでは、独立後政治的な対立により今年1月に内戦が激化し、多数の避難民が出たことから、FH南スーダンや国連機関との連携で食糧パックや衛生用品の配布などを実施しました。

ニジェールでは現地パートナーを通じて食糧支援をするとともに、2012年からスタートしたリーダー

研修 (VOC セミナー) により、現地の人々による自立にむけての取り組みもスタートしました。リーダー研修は、コンゴ民主共和国でも行われ、地域リーダーによる計画が話し合われています。(次頁参照)

子どもの教育支援では、世界7カ国 (ボリビア、ウガンダ、ルワンダ、ケニア、バングラデシュ、カンボジア、フィリピン) で世界里親会によるプロジェクトが行われています。また、南スーダン、ケニア、ジブチ、カンボジアでは、給食支援を通じて、子どもたちの栄養状態改善を目指しています。

ハンガーゼロサポーターになって下さい

ご支援は毎月一口1,000円から、最終頁の申込み欄 (郵送・FAX) またはウェブサイトでクレジット・カードで募金も可能です。

2014年の世界食料デー大会で現地報告者として帰国した、コンゴ民主共和国駐在 (西・中央アフリカ担当) ジェローム・カセバにこれまでの活動やハンガーゼロ実現への課題を聞きました。



ハンガーゼロ実現の鍵は私たち自身にある

Q 2013年7月にコンゴのルブンバシで3日間にわたり行われたVOCセミナー (地域リーダー育成) では、教会や地域のリーダーが約50名集まって学ばれましたが、その後どのような意見や提案が出てきているのですか

J (ジェローム) 参加者はセミナーを通じて、飢餓・貧困に立ち向かうために「自分たちにも可能性がある」という意識を持つことができ、将来地域を変えていくことができる」という意識を持つ重要性に気づくことができました。それ以来、月に一度の集まりが続いています。そこではいろいろな情報交換とともに、地域でビジョンを共有することの意義を話し合っています。

その後のリーダー間の交流を通じてよく聞かれるようになってき

ネットのインフラ整備が進んでいるので、青年たちがパソコンを学んで使える環境ができれば、様々な知識を得るとともに職業選択の機会も増えるので、指導できる人が欲しいという声も出てきています。

Q セミナー参加者はどんなことを始めましたか?

J セミナーが開かれる半年前、国境近くのプトという町が反政府軍に襲われた時、公務員だったパメラさんが35家族 (約70人) を引き連れて、450km離れたルブンバシにたどり着きました。そのため私たちや地元の教会が食料や生活必需品を提供しました。そうしたこともあってパメラさんもセミナーに参加してくれました。彼はこの中で「私たちは国内避難民だけど、それぞれに能力が与えられている。それを生かしていきなれば、私たちは必ず自立していける」と励まされたそうです。パメラさんは30人位の人と故郷プト近郊 (元の居住区は未だ危険がある) に戻り、自立のための農業を始め

ています。

Q コンゴで飢餓問題を解決していくために重要なことは

J とにかく紛争がなくなるこ

とです。平和が実現しないことには、安心して定住できないし、農業をすることができません。とくに反政府軍の兵士によってレイプされた女性たちの問題は深刻です。そのような被害を受けた女性たちは、夫から捨てられたり、村人からも差別を受けたりしています。コミュニティにおいて女性たちが傷つけられ、尊厳が失われていくことは、コミュニティの崩壊に結びつきます。それが反政府軍の真の狙いでもあるのです。

Q アフリカでハンガーゼロを実現していくためには何が重要だと考えますか

J アフリカはこれまでも外国からの支援を受け続けてきました。それは必要なことではありましたが、その支援にはゴールが明確ではありませんでしたので、結局は支援を受け続けるばかりでした。しかし、VOCの取り組みから生まれるアプローチは、小さな取り組みであったとしても、地域の人々自身によるものなので、持続性とともに、その過程で人々のさらなる成長が期待できます。

わたしから始めるなら、アフリカも必ず変わる、ハンガーゼロが実現していくと信じています。



仲間たちと自立を目指すパメラさん

たのは、「農業をもっとよくしていきたい」、「農業学校を作って新しいことを学びたい」というもので、モリンガ栽培*を始めたいと具体的な声もあります。また、インター

モリンガ 別名「奇跡の木」もしくは「生命の木」と呼ばれる熱帯・亜熱帯地方に主に自生する樹木。成長が速く、モリンガの葉や茎、実など部位を余すことなく利用でき、また栄養豊富な食品 (お茶等) としても近年注目を集めている。JIFHも昨年ザンビアにおけるプロジェクトを支援しました。

アフリカ	439,167,568
ウガンダ	8,665,997
世界里親会	7,128,047
アガベ・ホスピタル・ミニストリー	1,537,950
エチオピア	515,200
収入向上活動支援	515,200
ルワンダ	10,173,603
世界里親会	2,763,414
海外駐在スタッフ/河合朝子支援	3,286,942
リーチ青少年育成	4,123,247
南スーダン	3,841,710
南スーダン ルンベック村マブイ小学校給食、教師育成	3,841,710
ケニア	8,064,880
世界里親会	2,989,522
シーブケア学校 給食支援	1,557,450
シーブケア学校 土地	1,977,200
シーブケア学校 物資受取通関料	309,120
シーブケア学校 学用品等	404,992
コイノニア学校	820,880
車両輸出書類	5,716
ジブチ	1,039,200
ジブチ給食支援	1,039,200
モザンビーク	425,000
車両購入	425,000
ガーナ	396,059,860
医薬品	394,587,884
児童就学支援	228,976
医薬品輸送費	1,243,000
ニジェール	4,744,320
地域リーダー育成トレーニング	558,420
食糧援助	4,185,900
タンザニア	7,371
車両輸出書類	7,371
コンゴ民主共和国	5,536,755
ハンズ・オブ・ラブ・コンゴ	3,557,200
地域リーダー育成トレーニング	1,370,340
車両購入	582,440
海外駐在スタッフ/ジェローム・カセバ支援	26,775
ブルキナファソ	93,672
児童就学支援	93,672

南米	66,625,027
ボリビア	10,900,711
世界里親会	7,679,453
アサワニ CDP ワークブック	115,550
里子の家の修理	53,000
海外駐在スタッフ/小西小百合 支援	3,052,708
ニカラグア	27,707,748
物資輸送費	1,544,100
食糧品・文具 (物資)	26,163,648
グアテマラ	28,016,568
物資輸送費	1,852,920
食糧品・文具	26,163,648

アジア	37,001,908
バングラデシュ	4,747,391
世界里親会	3,688,791
新センター準備金	1,058,600
カンボジア	7,960,387
世界里親会	4,875,638
子ども教育センター豆乳支援	2,050,749
新センター準備金	1,034,000
フィリピン	21,618,588
世界里親会 (ピコール)	4,357,511
世界里親会 (カパタガン)	3,323,515
海外駐在スタッフ/酒井 保 支援	5,379,852
ホープ児童合唱団 来日費用	1,222,490
ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン	6,535,220
プレイズエメラルドスクール支援	800,000
パキスタン	2,675,542
自爆テロ被災者救援 1年分	765,948
女子教育支援	1,058,600
女性病院支援	618,240
車両購入	232,754



海外緊急援助	12,149,789
南スーダン緊急援助	1,039,200
マリ緊急援助	2,117,200
フィリピン台風支援	8,993,389
国内援助	16,444,444
東日本大震災被災者支援	16,444,444

その他	12,999,140
国際飢餓対策機構フェデレーション 活動資金	5,159,000
Ainote 2014年北米地区活動委託費	1,030,400
ビジョン・オブ・コミュニティ・フェロシップ協力金	5,809,740
国際飢餓対策機構 分担金	1,000,000

支援合計 5億8,438万7,876円



里子の家の修理 (ボリビア)

※数字の単位は全て円です。※駐在スタッフの支援金には、年金・海外旅行傷害保険などが含まれています。

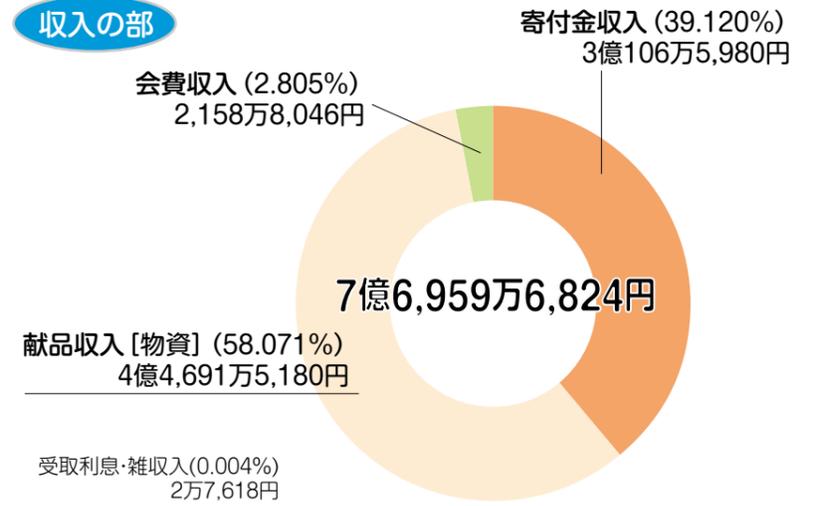
以上の通り報告します。

2014年6月30日

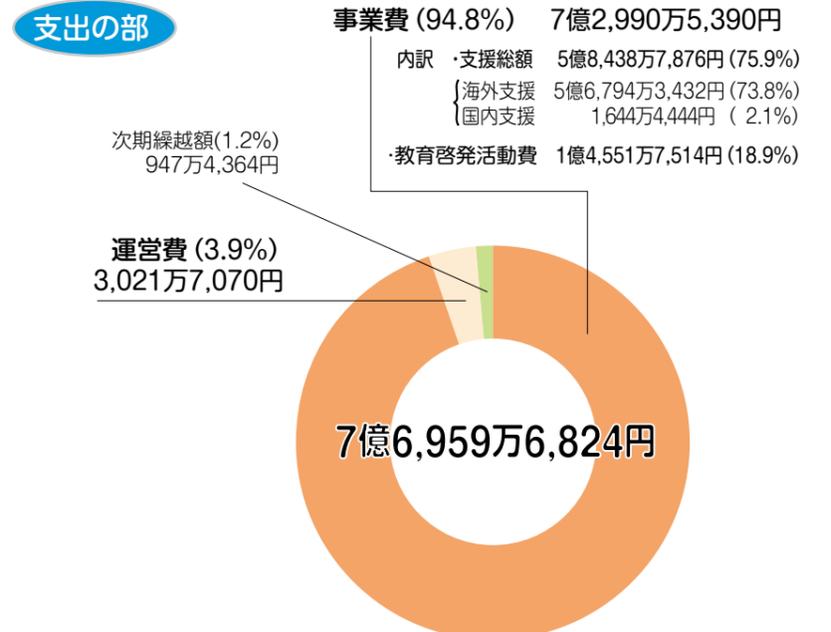
一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋 竜介

決算報告

収入の部



支出の部



監査報告書

一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋 竜介 殿

私なら監事 朝倉 幸、山田 晶一の名は、
一般財団法人日本国際飢餓対策機構の2013年7月1日から
2014年6月30日までの第4期会計年度における財産増減計算書
および貸借対照表を監査いたしました結果、適法かつ正確である
ことを認めます。

2014年6月6日

監事 朝倉 幸

監事 山田 晶一

第4期決算公告
平成26年9月20日
大阪府八尾市弓削町3丁目74番地の1
一般財団法人日本国際飢餓対策機構
代表理事 岩橋 竜介

貸借対照表の要旨
(平成26年6月30日現在) (単位:千円)

科目	金額
流動資産	64,340
固定資産	28,721
合計	93,062
流動負債	5,392
固定負債	1,000
負債合計	6,392
基金	3,000
指定正味財産	0
一般正味財産	83,670
正味財産合計	86,670
合計	93,062



世界里親会より2013年度の活動報告をさせていただきます。
本年度はウガンダとバングラデシュの2カ国での支援を終えることができました。
ウガンダにおいては、サポーターの皆様とともに現地で行われた記念式典に参加し、ご支援へのあふれる感謝と笑顔、人々が希望を抱いて自らの足で立ち、歩みを進める姿を見せて頂きました。
この2カ国では別の場所で引き続き世界里親会の活動を始めています。
教育によって子どもたちの将来が開かれ、さらにはその国の将来を変えてゆく人へと成長することを願い、共に歩みを進めて参ります。皆様の尊いご支援を心から感謝いたします。

■ ボリビア ■

活動地：コチャバンバ州アワサニ
ポトシ州リオカイネ
支援里子数：331名

アサワニ地区では特別医療活動で大人も含めて計275名を診察し、薬品、ビタミン剤、古着、中古のカバン、靴等をプレゼントしました。
リオカイネ地区のセンター校（小～高校）に化学薬品と器具、棚、机、椅子等を支援し、生徒も資金集めをして開校以来初の化学教室を開所することができました。

■ ウガンダ ■

活動地：ナムトゥンバ地区
マガタ、イジランゴビ
支援里子数：498名

2人に1人が貧困状態の村々（国の調査による）において、2013年9月に支援を開始。教室が足りないため、戸外で行われる授業は雨や害虫に悩まされることが多く、地域主体で校舎の建設を始めました。

■ ルワンダ ■

活動地：首都キガリ、ニャンザ
支援里子数：121名

音楽教育に力を入れています。子どもたちの心を育むだけでなく、寄贈されたピアノを使って発表会を行

い、保護者も共に喜ぶ時間をもちました。通学できない問題の解決のため家庭訪問をして話し合ったり、共同組合を貯蓄や情報交換の場として用いたりしています。

■ ケニア ■

(シーブケア学校)

活動地：ナイロビ郊外
支援里子数：117名

生徒たちは遠足で首都ナイロビの「世界貿易フェア」に行き、見聞を広げる機会が与えられました。またハイスクール進級に欠かせない国の統一試験準備で長い時間勉強する子どもたちのために、世界里親会から食事のサポートを行いました。

■ フィリピン ■

活動地①：ミンダナオ島カパタガン
支援里子数：136名

この地域では学校・地域・家族を巻き込んだ様々な行事が行われています。「先生に感謝する日」には子どもたちと里親会スタッフから、学校の先生に手紙や花束をプレゼントして日頃の感謝を伝えました。
また、生活費を工面するために家族と過ごすことが稀な保護者のために「家族の日」を持って、家族のつながりを再確認してもらいました。

活動地②：ルソン島ピコール地域
スラ、マトノグ
支援里子数：206名

子どもたちの栄養失調を改善するために週3回の給食を3ヵ月間提供すると同時に、保護者には栄養の学びに参加してもらいました。学びが終了する頃には適切な食事を用意することができるようになりました。支援のゴールを明確にして人々の必要に応えています。

■ バングラデシュ ■

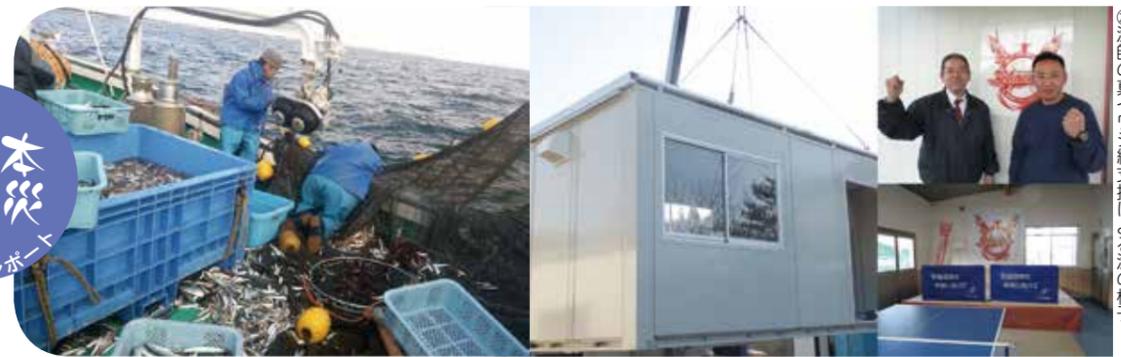
活動地：マイメイシン、マチュバラ
支援里子数：285名

2014年1月に支援が始まりました。貯蓄組合と呼ばれる小グループの集まりを持ち、衛生や識字・ミシン技術の学びや、少額融資による飲料水源の確保やトイレの設置など環境改善に取り組んでいます。

■ カンボジア ■

活動地：オドー・メンチエイ州
アンロン・ベン郡5地区
支援里子数：248名

2014年7月の3地区自立支援終了に先立ち、5月に行われた記念式典にサポーターの皆様が出席しました（飢餓対策ニュース6-7月号参照）。残り2地区は来年7月に活動終了予定です。



④気仙沼Bセンターのプレハブ小屋支援
⑤漁師の真イワシ網支援による漁の様子

今、あらためて寄り添える支援が必要

東日本大震災から3年7ヵ月、被災地では復興への基盤が目に見えて現れてきています。海岸沿いの防潮堤、災害公営住宅への入居、交通網の完全復旧など大きな復興は前進しています。

JIFHも、宮城県亘理町の森漁業さんに真イワシ網、気仙沼市フェニックスバッティングセンターに事務所用のプレハブを支援させていただくなど、自立に向けてのお手伝いができました。反面、多数の方が、「復興の格差」を実感しています。

自立への歩みに温度差

災害公営住宅に移る人（抽選での入居）、新しい土地に家を建てる人、生業を確立していく人がいる一方で、年配者の多くが将来に

不安を抱いておられます。また2年前は仮設集会所でのイベントを開催するために日程を確保するのも大変なくらいであったのに、現在はイベントのない空白の日が目立っています。仮設住宅生活が長



地元教会による支援活動（仮設住宅にて）

引き、支援する側も様々な理由で活動から手を引かざるを得ない状況になってきているのです。

その様な中で地元の教会やクリスチャン団体が継続して支援活動を続けることによって、地域の方々と良い関係が築かれてきています。訪問するたびに、「こうし

て来てくれるだけで嬉しいんだ」、「この集まりが待ち遠しいです」、などの言葉を頂きます。

ボランティアできます！

被災地以外では、東日本大震災に関係したニュースはだんだんと耳にしなくなってきていることでしょう。けれども、ここでは、まだ毎日が3.11です。3年が過ぎて風化しようとしている今だからこそ、寄り添いが必要になっていると感じます。

『今』必要なボランティアがあります。3年前には来られなかった方、今なら何かできるかもしれないと考えておられる方は、ぜひ東北に足を運んでください。

お問合せは東北事務所まで。
☎022 (217) 4611 (伊東・加藤)

防災対応のハンガーゼロ自販機に注目

ハンガーゼロ・募金型自販機の取り組みが始まって3年が経ち、現在では、全国に73台が設置されています。2013年度の募金額

は1,387,620円でした。「身近なところで社会貢献ができる」、「自販機の照明が防犯対策になっている」等、設置者の皆様からご好評をいただいております。

特に昨年からは始まった、パン・アキモト、麒麟ビバレッジ各社との協働プロジェクトは、国際協力（ドリンク1本につき10円が寄付）と防災対策（緊急災害時の備蓄用としてパンの缶詰、ミネラルウォーター各96個を麒麟ビバレッジが無償で提供）を兼ねており、自然災害が続く昨今、お問合せも増えています。自販機の設置については、お気軽にご相談ください。



八王子市のラーメン店に設置された自販機



フィリピンを襲った台風30号の緊急支援では、パンの缶詰を緊急食料として配布、被災者に「おいしい」と言われました

世界里親会チャイルド・サポーターのしくみ



手紙など
成長記録
支援金・支援活動



里親会費 4,000 円の内訳
・現地活動費
学費の他、里子にかかわる家族、地域、学校に使われます。
・国内事務経費
【サポーターさんに届くもの】
・里子紹介資料(初回) ※きずなノート
・成長記録(年1回)
・クリスマスカード(年1回)
・手紙や写真の交信(随時)

★2014年里子へのクリスマスカード受付中です！



きずなノート